

坊ぼつちちゃん

なつめ そうせき
夏目漱石

親おや譲ゆずりの無鉄砲むてつぽうで小供こどもの時ときから損そんばかり
して居いる。小お学校じぶんに居いる時とき分ぶん学校がっこうの二階にがいから
飛とび降おりて一週ひとしゅう間かん腰こしを抜ぬかした事ことがある。
なぜそんな無闇むやみをしたと聞きく人ひとがあるかも
知しれぬ。別段べつだん深ふかい理り由ゆうでもなない。新築しんちくの二階にがい
から首くびを出だして居いたら、同級生どうきゅうせいの一人ひとりが冗談じょうだん
に、いいくら威張いばつても、そこそこから飛とび降おりる
事ことは出来できまい。弱虫じやくちゅうやーい。と囃はやしたからで
ある。小使こづかいに負おぶささつて帰かえつて来きた時とき、お
やじが大きな眼めをして二階位にがいから飛とび降おり
て腰こしを抜ぬかす奴やつがあるかかと云いったから、此この次つぎ
は抜ぬかさずに飛とんで見みせますと答こたえた。